

【山海留学は今】

「日本一長い村の挑戦」

十島村の山海留学制度

十島村教育委員会 教育長 木戸浩

鹿児島県の種子島・屋久島と奄美大島の間に連なる「南北160kmの日本一長い村」が十島村です。

交通手段は週2便の村営船のみで、海が時化ると2週間ほど生活物資が届かないこともありま

す。村役場と教育委員会は、鹿児島市にあるという特殊な行政システムに置かれた村です。

昭和49年に児童生徒が無人数になるという地元

の危機感から、平成3年度から山海留学をスタートしました。民家の1室を借りて受け入れるという「里親制度」から始めました。しかし、地元の子どもの減少や里親の高齢化も進み、7島の全児童生徒を合わせても60人を切るようになってきました。

そこで、平成29年度から国庫補助事業を活用して山海留学生寮を整備し、寮監も島外から募集しました。

留学生には6室準備して全国から募集しました。今年度で55人、累計

で519人を受け入れてきています。

留学生の志望動機にはいろいろなものがあります。もちろん、大自然を満喫し、魚釣りや珍しい動植物と触れ合いたいという積極的な理由があります。しかし一方で、その半数以上は、いじめ等

が原因で今の学校に行けなくなり、環境を変えて何とか通えるようになりたいという切実な理由で希望する子どもが多くなっているのも事実です。

そういう子どもたちを、学校も地域も優しく受け入れてくれます。1年後または卒業を迎える頃には、志望高校に合格

できるほど元気を回復し、学力も定着してきました。そうした癒しを与えてくれるのが十島村の山海留学です。

山海留学が

集まる理由

全国から毎年留学希望



小宝島寮の玄関にて寮監さん家族と留学生



悪石島寮でフランス人の寮監さんと一緒に学習

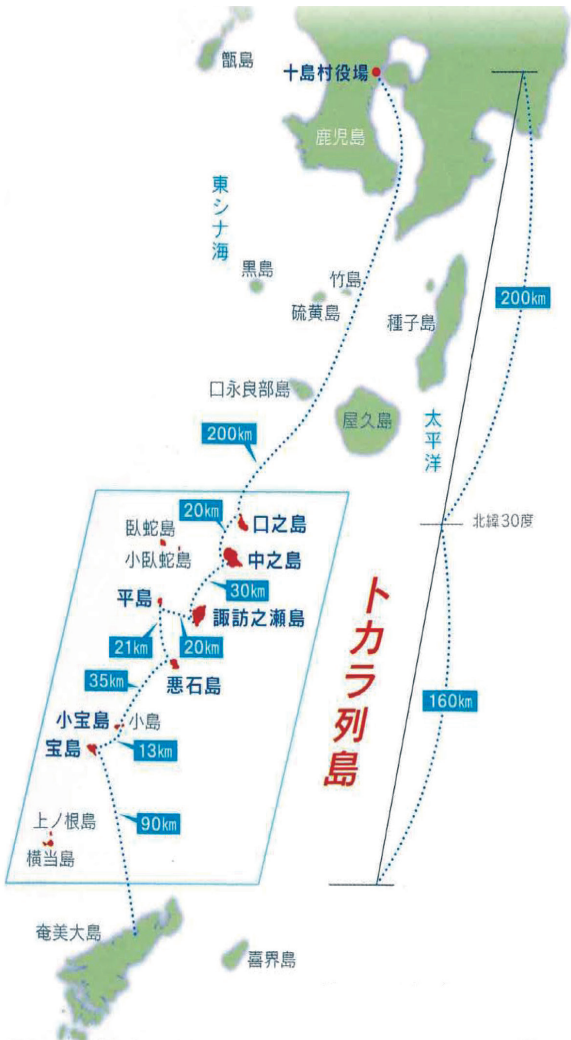
者の応募があるのは、それだけの魅力があるからだと思えます。手付かずの自然や「仮面神ボゼ」をはじめとする文化や様々な伝統行事などもたくさんあります。

留学にかかる費用が非常に安価に設定されており、保護者負担が少なく、それ以外にも、給食の無償化や、修学旅行などの村外での行事等は、全て村が負担しています。

今年度から7つの学校

が全て義務教育学校となりました。学力を付ける意味でも非常に有効です。

また、各島にALTが1人ずつ常駐しています。ネイティブな英語に常に触れることができます。英検の2級まで合格する生徒も多いです。これからも山海留学制度を充実させるために、様々な施策を行っていきます。



十島村の位置